

清 淨 光

The image shows a musical score for the piece '清淨光' (Shōjōhō). It consists of four systems of music, each with a vocal line and a piano accompaniment. The vocal line is written in a single treble clef, and the piano accompaniment is written in two staves (treble and bass clefs). The key signature is one flat (B-flat), and the time signature is common time (C). The lyrics are written in Japanese characters below the vocal line.

に こりに い で て い さぎ よ く
さ - ける は ちす-の か おり こ せ
き - よ き ひ かりに ひ らか れ- し
む - との こ ころ-の は なな ら- め

光こう化かの心しん相そう

清しやう 淨じやう 光こう

(一) にごりにいでていさぎよく

きよひかりき光ひらに開かれし

さけるはちすのかをりこそ

人ひとの心こころの花はなならめ

(二) あかねさすてふ朝あさ日ひ影かげ

清きよき光ひかりに照てらされし

みるもまばゆく輝かがやくは

人ひとの心こころにたぐひてん

(三) みがきて照てらすまにの珠たま

ねりてかゝやくこがねこそ

きよき光ひかりにみがゝれし

人ひとの心こころの色いろならめ

(四) 雲くもをあらしに拂はらはせて

さやかにてらす秋あきの月つき

きよき光ひかりに照てらされし

心こころのすがたにたぐひてん

(五) 富士ふじのたかねに白しろたへの

雪ゆきのすゞしき色いろこそは

清きよき光ひかりにみがゝれし

人ひとの心こころのすがたなれ

歡かん 喜ぎ 光こう

(清淨光の譜に同じ八六頁)

(一) くるしき海うみはかぎりなく

まよひはふかくそこもなし

めぐみの船ふねにのりえたる

人ひとの心こころは安やすらけし

(二) うき世よのうみは廣ひろくして

なやみの風かぜははげしくも

めぐみのみなどに船ふねとめて

やすらふ心こころはやすらけし

(三) 朝日あさひににほふさくら花ばな

八重やえこゝのへはよろこびの

光ひかりに開ひらきてうるはしき

人ひとの心こころにたぐひてん

(四) 一ひとたび開ひらきてとことばに

かはらぬ色いろはよろこびの

光ひかりにあひてうれしさの

人ひとの心こころの花はなならめ

(五) 天てんにも地ちにもよろこびの

心こころの花はなのひらくれば

光ひかりはあまねくみちみり
とはにのどけき春はるならめ

智ち 慧え 光こう

(清浄光の譜に同じ八六頁)

(一) 智慧光さときひかりをあふぎつゝ

こがねのすがた妙たえなりし

心こころの水みずのすみぬれば

月つきのおもかげやどるなり

(二) 玉たまやこがねにかゝやける

聖きよき光ひかりにみがゝれし

きよきみ旨むねはさながらに
心こころのかゝみにうつるなり

(三) 智慧光さとときひかりの日ひやてらす

むみよう

無明むみようにかくれしひめごととも

(四) 妙たえなる法のりの身みの月つきは

まよひの雲くものはれぬれば

不ふ 断だん 光こう

(一) われらをすくはん爲ためならば

しのびて悔くいじとちかひてし

さまやの窓まどのひらくれば

啓示しめさるゝなり悟さとるなり

照てらさぬ所ところなかりけり

わがのきばにぞながめえん

(清淨光の譜に同じ八六頁)

ならくの底そこにしづむとも

そのみこゝろをあふげかし

(二) われらがためにいくたびか

ふかきめぐみと思ほえば

(三) つみにほろびしわれくを

五劫に思をつくしたる

(四) 神聖正義のみひかりに

聖きみむねをかしこみて

(五) 天にも地にもみちみてる

ふかき恵を思ほえば

數をも知れぬ身をすぎし

身をくだきてもむくはなん

すくふ方便をたてんとて

ふかき恵みを忘るなよ

くらしつゝある身としらば

命のつとめをはげむべし

めぐみの光かむるなり

感謝の心なわすれそよ

釋尊の本懐

(清淨光の譜に同じ八六頁)

如來無盡の大悲より

釋迦牟尼佛と現はれて

世の群萌を拯はんと

正しく出世本懐の

世尊大事の因縁は

分子れし本具佛性を

三界の子を矜れみて

光く道教を闡きまじ

餘の方便を擱おきて

彌陀の法を演たまふ

衆生本有の法身より

開きて清きに悟らしめ

かたち 形氣に受けたる煩惱ほんのうを

ちとく 智徳を併ならべ備へては

こらがはしな 衆生無始く無明は

みおや 彌陀の常に照す日ひの

すなわ 即ち菩薩の階位かいにて

じようまんがつ 淨満月は正覺しようかくの

くらき 闇に迷ふは凡夫ほんぶにて

まど 圓かに照して満ぬるは

れいか 靈化し菩提ぼだいの徳とくとはし

まこと 眞の佛子と爲せむが爲ため

あた 恰あかも闇くらき月つきの如ごとと

えい 映えずる影かげの缺かけ盈みちは

しんげつすす 新月進しんげつみて十五じゆうごなる

ぶつゐ のほ 佛位ぶつゐに登のぼりし姿すがたなり

ぼさつ 菩薩ぼさつは分ぶんに光ひかりを得え

すなわ 即ち佛ぶつ陀だの覺さとなり

憶念の歌

わがみほとけのじひのおも
あさひのかたにうつろいて
てるみすがたをおもおえば
れいかんきわまりなかりけり

憶念の歌

おくねんうた

我がみほとけの慈悲の面

朝日の方に映ろひて

照るみすがたを想ほえば

靈感極りなかりけり

聖しやう

種しゆ

(憶念の歌の譜に同じ九五頁)

ほとけのみなをたねとして

めぐみのひかりにてらされて

あふぐこゝろのはなひらき

またなきさとりのみとならむ

感謝の歌

てんはなにともいわねども
よときはつねをあやまらず
はるはめばえてなつしげり
あきはみのりてふゆおさむ

感謝かんしゃの歌うた

(一) 天てんは何なにともいいはねども

よよととききつつねねををああややままららずず

ははるるははめめばばええななつつししげげりり

ああききははみみののりりててふふゆゆおおささむむ

(二) 大親みおやのおこきころてころはころ意こころなきこころ

くくささききももままもも守まもりりてて違たがはたがじじをを

まして心こころの有ある身みより

(三) 萬よろずの物ものをいつくしみ

神聖正義しんせいせいぎをしめします

(四) 恩寵めぐみを御名みなに表あらはせり

救すくひの御手みてに攝おさめられ

(五) 常恒とわに閑のどけき心地こちして

もはや此身このみは終おわりなき

仰あおげば彌いよいよよ尊とうとしな

心こころを照てらす靈光みひかりは

罪つみにほろびし我等われらには

稱たたへて聖意みむねを信たより頼なりなげ

光ひかりの裡うちに潔いさぎよく

安やすくぞ此世このよを暮くらさるゝ

壽いのちの中なかの生命いのちぞと

六) 悦よろこび勇いさみて日ひ々に日ひに

常つねに感かん謝しゃの心こころもて

聖きよきみむねを畏かしこみて

命いのちの職つとめをはげまなん

おほせのつとめ

てんにもちにもかがやきて
よのまひるのまどこしえに
てらすみひかりこうむりぬ
われらいかにかむくうらん

おほせのつとめ

天^{てん}にも地^ちにもかがやきて

夜^よの間^まひるの間^まどこしへに

てらすみ^{ひかり}光かうむりぬ

われらいかにかむくうらん

聖きよきみむねをかじこみて ねてもさめてもへだてなく

ふかきめぐみをよろこびて

命おおせのつとめをつとむなり

よろこびのひかり

い--ろは におえど ちりぬる を
も--もも さくらも ひと--さかり
げ にあ だしよの はか--なさは
つ ねなる も---のぞ なかりけり

よろこびのひかり

いろはにほへどちりぬるを

もももさくらもひとさかり

げにあだしよのはかなさは

つねなるものぞなかりけり

ひとたびひらきてとことはに

かはらでにほふはよろこびの

ひかりによりてさきにける

ひとのこゝろのはなならめ

聖意の現はれ



みむね あら 聖意の現はれ

せいなる聖名を稱ては
せい みな たたえ

聖意の現はれ仰ぐなり
みむね あら あお

如來の無上恩寵を
によらい またなきみめぐみ

我らが感情に満しめよ
われ ころろ みた

如來の神聖なる聖意
によらい しんせい みむね

我らが良心を照しませ
われ ころろ てら

如來によらいの正義せいぎなる聖意みむね

至真しいしんにしていと聖きよき

至善しいぜんにしていと聖きよき

至美しいびにしていと聖きよき

我われをすべての同胞はらからと

正婚せいこんの頌うた

(聖意の現はれの譜に同じ一〇四頁)

聖せいなる御名みなを稱たたへては

我われらが意志こころに現あらはれよ

靈國みくにをこゝに格きたれかし

靈國みくにをこゝに格きたれかし

靈國みくにをこゝに格きたれかし

安やすき靈許みもとに在あらしめよ

聖旨みむねの現あらはれ仰あおぐなり

如來によらいの神聖しんせいなるみむね

如來によらいの上またなき恩寵めぐみにて

如來によらいの正義せいぎなるみむね

至真しいしんにしていとまよき

至善しいぜんにしていとまよき

至美しいびにしていとまよき

如來によらいの聖きよきみむねもて

尊とうとく婚むつみをなさしめよ

和やわらぎ婚むつみを結むすびませ

正ただしく婚むつみを成なさしめよ

靈國みくにをこゝに格きたれかし

靈國みくにをこゝに格きたれかし

靈國みくにをこゝに格きたれかし

圓まどかに婚むつみを結むすびませ

育 児 の 歌

あ お ぐ も か し こ き み お - や よ り
 あ ず か り に け る ち こ な れ ば
 み じ ゃ の こ - ら に な れ か し と
 た だ あ さ ゆ う に い の る な り

育 児 の 歌

いくじ うた

(一) 仰ぐもあお畏かしこきみ親おやより

預あずかりにける稚児ちごなれば

み旨むねの児等こらになれかしと

たゞ旦夕あさゆうにいのるなり

(二) 神聖正義しんせいせいぎのこオヤより

あづかりにけるこの稚児ちごを

もしもみむねに背かせば そむ われこそ地獄の薪なれ じごく たきぎ

むつみの正因 しょういん

(育兒の歌の譜に同じ一〇七頁)

(一) 聖き我等が教主 きよ われら おしえぬし

過_{むかし}去_{どうい}道_い意_{おこ}を發_{とき}す時

花_{はな}を分_わけける乙女子_{おとめこ}と

いもせのちぎり誓_{ちか}ひにき

(二) せこが立_たてたる志氣_{しきたか}高く

妹_{いも}が心_{こころ}の花_{はな}清_{きよ}く

むつみてよきみを結_{むす}ぶまで

誓_{ちか}ひて仕_{つか}へまつらるゝ

(三) 上またなきさとりを得うるまでは

世よ々にたがはでむつみける

教おしえの祖おやの躅あとたかし

むづみの法のりのかしこけれ

(四) 聖せいなるみむねをせこはうけ

白しろくはいもをいざなひて

きよきむつみを結むすびては

みおやにつかへまつるなり

(五) 上またなきめぐみをいもはうけ

赤あかき心こころをせにさゝげ

高たかき天職つとめを助たすけては

聖めぐみ恵むくに報むくいまつるなり